



166キロの
清流を
とり戻すために
まずは長良川河口堰の「プチ開門」を実現しましょう

愛知県は 河口堰のなかった頃の 長良川を取り戻すために、 開門調査を提案しています。

Contents

わたし、長良川です。……………	03
いろんな命を、育んできました。……………	05
「里川」と呼ばれるのが、誇りです。……………	07
あの日、わたしは海との大切な絆を失いました。……………	09
1,493億円!? 誰が払ったのでしょうか? ……	11
河口堰のゲートが開けば、また旅ができそう。……………	13
いつ、どんなふうに、ゲートが開くんだろう。……………	15
<hr/>	
ここからは、ちょっと専門的な話	
正しい環境アセスメントができているか?……………	17
大規模な浚渫は本当に必要だったのか?……………	21
塩水が上って塩害が起きるのは本当なのか?……………	24
水資源開発と渇水対策に向けて新たな発想を……………	27
農業用水・工業用水・水道水に影響がない「プチ開門」は可能です! ……	31
世界の河川再生……………	36
おわりに 河口堰の最適運用に関連する専門家たちの会合は有意義……………	41

「河川再生」とは、
私たちの社会にとって
健全な経済と環境に対する投資です。
「河川再生」とは、
皆で力をあわせて実現するものです。

長良川にとって、
そして流域の人々にとって、
最適な答えは何なのか…
その答えをみつける
「長良川再生の旅」に出かけましょう！

まずは長良川の声聞いてください。



个 水田地帯 上流の河岸段丘に広がる水田地帯。写真：磯貝政司

わたし、長良川です。

大日ヶ岳で生まれて、伊勢湾まで旅をします。

日本を代表する清流です

長良川は、大日ヶ岳(岐阜県郡上市/標高1,709m)に源を発し、岐阜県・愛知県・三重県を経て伊勢湾まで流れる全長166km、流域面積1,985km²の一級河川です。その流れは、四万十川(高知県)とともに日本を代表する清流として知られます。

長良川が日本を代表する清流といわれるのは、ただ“水質がきれい”ということだけではありません。川の生態系がゆたかであること、流域に自然に近い状態が残されて「里山」の原風景があること、川と関わる伝統的な生活文化が残っている「里川」としての魅力があるからです。



↑ 生まれる水 源流・吠谷(かますだに)のブナの森で生まれたばかりの水。ここから長良川の旅が始まる。 写真：磯貝政司



多くの支流を集めて流れる ゆたかな川

長良川は吉田川、亀尾島川、板取川、武儀川、津保川、さらに中流で伊自良川、犀川などの支流を集め、伊勢湾に近づくと木曾川、揖斐川と並行して流れて、木曾三川と呼ばれる雄大な姿を見せます。

上流では「宗祇水」や「水舟」で知られる郡上八幡、中流では「鵜飼」で有名な岐阜市の町の中を流れ下る“人の暮らしとともにある川”です。いまでも昔ながらの渡し舟や、川漁師さんが残っている日本でも有数の清流です。

← 夏の吉田川 岩場から川に飛び込む子供たち。
郡上八幡の子どもたちは川とともに育ってゆく。 写真：磯貝政司

- 中流域が環境庁(現・環境省)「名水百選」に選定(1985年)
- 岐阜市の長良橋から上流約1kmまでの水浴場が、環境庁「日本の水浴場55選」に選定(1998年)
- 同上が環境庁「日本の水浴場88選」に全国で唯一、河川の水浴場に選定(2001年)
- 上中流域が「清流長良川の鮎～里川における人と鮎のつながり～」として、世界食糧機関(FAO)により世界農業遺産(Globally Important Agricultural Heritage Systems)に認定(2015年)

魚影 長良川には60種を超える魚たちが生息し、その種類は日本でも有数といわれる。 写真：磯貝政司 →



【コラム：世界農業遺産～長良川】

岐阜県を流れる長良川は、漁業者や市民団体による水源林の育成や河川の清掃など、人が適切に管理することで、資源を保全するとともに良好な環境を生み出し、清流に育まれた漁業、農業、林業などの産業が発達している「里川」です。なかでも、鮎を中心とした内水面漁業が盛んで、鵜飼漁をはじめとした伝統的な漁法が数多く受け継がれ、鮎を使った郷土料理も食文化として根付いています。また、清流が保たれることにより、美濃和紙や郡上本染などの水と密接なつながりのある伝統工芸が引き継がれ、長良川の持続的なシステムを育んでいます。

(農林水産省パンフレットより)

← 総がらみ 岐阜市の鵜飼。横一列に並んだ鵜舟が、かがり火を川面に映しながら流れを下る。 写真：磯貝政司

いろいろな命を、 育んできました。

たくさんの生きものが、私とともに旅をしてきました。

ダムに遮られることのなかったゆたかな流れ

長良川河口堰ができるまで、長良川は本州の一級河川で唯一「本流にダムのない川」でした。

川の河口部では潮の満ち引き(潮汐)によって川の水位が変わります。この影響を受ける区間を「感潮域」と呼び、長良川では長良大橋(河口から約39km上流)まで潮汐の影響があったといわれています。

感潮域の下流側には、海水と淡水が混じりあう「汽水域」があって、そこには淡水とも海水とも違う環境に棲む生きものたちがいます。河口堰ができる前の長良川には、

名神高速道路のあたり(河口から約32km上流)までの広い汽水域があったとされ、シラウオやクルマサヨリ、スズキ、マハゼなどの汽水魚や、さまざまな魚や鳥の餌になるゴカイ類などの底生動物、バンケイガニの仲間やヤマトシジミなどが棲んでいました。そして、こうした生きものを食べるニホンウナギの育つ場所でもありました。

汽水域の代表的な景観は「ヨシ原」です。ヨシが群生する場所にはたくさんの生きものが棲み、繁殖の場所でもあるのです。またヨシには水をきれいにする働きもあります。



↑ 河口堰運用前の長良川のヨシ 伊勢大橋上流 写真: 山内克典氏

川とともにあった人々の暮らし

昔は、川には、たくさんの魚がいて、大人も子どもも川で釣りや魚獲りをしていました。夏には川で泳ぎ、ホタルも舞っていました。上流にはきれいな水があって、飲み水や洗いのの水に使っていました。川が氾濫しそうになると、地域で堤防の見回りをしていました。川は生活の一部でした。

ところが、日本中のあちこちの川をコンクリート三面張りにして人を近づけなくするとともに、生きものの棲み家もなくなりました。川は洪水を流すところか、水をとるための場所にされてしまいました。

川と私たちの生活のとのつながりは、わずかに釣りやラフティングなどのレジャーの場として残っていますが、昔のようではありません。

川とのつながりが深かったときには、洪水がきたら「逃げる」のがあたり前でした。でも、ダムや堤防ができて洪水を避けられるという安心感が生まれると「危ないから逃げよう」という意識が弱まって、かえって被害を大きくするということがあります。東日本大震災の津波への対応がそうでした。水を利用するにも、水の災いから逃れるにも、ふだんから自然と付きあう機会を増やしていくことが大切です。



↑ ニホンウナギ 写真：長野浩文

長良川の魚たち

長良川といえば、まず、思い浮かぶのはアユとサツキマスです。どちらも川と海を行き来する魚です。

アユは川の中下流域(長良川では岐阜市あたり)で10月下旬～11月に卵を産みます。卵は10～14日で孵化して、すぐに泳ぎだして海へと流れて行きます。長良川では河口堰ができる前は4日くらいで海にたどり着いていました。アユの子どもたちは、河口や伊勢湾の沿岸で小さなプランクトンを食べて成長し、3月頃から長良川を上りはじめます。川を上ったアユは、川底の藻をさかんに食べて夏の間にどんどん大きくなります。そして9月頃からは産卵の準備が始まり、やがて秋が深まると産卵して一生を終えます。

海から川に上って成長するアユとは逆に、サツキマスは海に降って大きくなります。サツキマスはアマゴと同じ種の魚ですが、川で暮らすアマゴの中から、秋になって体の色が銀色に染まって海へと向かう個体があらわれます。銀色に変わったアマゴを長良川では「シラメ」と呼び、その中で伊勢湾までたどりついて成長したものがサツキマスです。秋に海へと降ったサツキマスは、春になると長良川を上流へさかのぼり、秋にはアマゴと一緒に産卵します。



↑ アユ網解禁 写真：磯貝政司



↑ 長良川のアユ 写真：長野浩文



↑ アマゴ釣り 写真：磯貝政司

「里川」と呼ばれるのが、誇りです。

昔からずっと、人とともに生きてきました。

川のゆたかさを奪ってゆく河口堰

長良川は、源流を発し、途中さまざまな様相を見せながら、海まで流れています。ゆたかな森がゆたかな海を産み、川から海へ、海から川へと行き来する生きものたちが川をゆたかにし、流域の漁業を支えてきました。

ところが1995年に河口から5.4kmの場所に河口堰(堤高15m以上をダム、それ未満を堰と呼びます)がつくられ、川を横断するコンクリートの構造物が、海への出口でその流れを堰き止めてしまったのです。河口堰は、川と海の連続性を断ち切り、塩水と淡水が入り交じる汽水域に生きる生

きものの棲み家を奪っていきました。

長良川を代表するアユは海と川を行き来する魚です。海と分断して「清流長良川の鮎」は成り立ちません。また鵜飼漁は観光漁業として有名ですが、川漁師さんたちが育んできた数多くの伝統的な漁法は、川漁師として生活することが困難な状況の中で次世代につなげていくのが難しくなっています。



↑ 瀬張り網漁 写真：磯貝政司